

## 令和5年度社会福祉法人神和会事業報告

### 1. 事業経過

昨年度の厳しい状況を引きずる形での年度スタートとなった。介護保険事業収入が5億円を超えたが、予算より約1000万円の減収となった。

居宅系サービス（短期入所、通所介護）では新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したとはいえ影響があり稼働状況は伸び悩んでしまった。しかし、営業を休止することなく運営できた事で然程落ち込むことは無かった。

支出において、物価高騰による介護用品や日用品の値上げ、施設の老朽化による設備の修理や交換工事の費用が多くなってしまった。一方9月末に施設内の照明をLED照明へと交換したことで、光熱費の大幅削減へと繋がった。

令和4年9月から12か月間、福祉医療機構の元本返済猶予を受けており、期限が切れる9月に再度6か月間の元本返済猶予を申請し受理された。

### 2. 稼働状況

稼働として特養部門では今年度も退所者が多く、入居者の入れ替わりが激しく安定しなかった。大野の郷、和の家それぞれ12名の退所者がおり、入居者の補充が追い付いていない状況が続いた。特養部門の空床を短期入所で活用し運営したことで短期入所部門は年平均9.9人（定員10床）、大野の郷特養、短期入所合算で利用率95.6%とまずまずの数字は残せた。和の家特養においても利用率95.5%であった。

通所介護においては1年を通して大きな減少はなかったが、稼働率が伸び悩んでしまった。原因として、地域での感染症流行に起因する休みや、体調不良による休みが1日平均4名程度だったこと、状態の変化により入院や施設入所へ移行等によって利用終了される方が新規利用開始者と同数いた事が挙げられる。

## ○大野の郷職員数（デイサービス・ショートステイ、居宅含）

	正職員	パート職員	備考
施設長	※1		兼務
生活相談員	※2		兼務
看護師	※5	1	兼務
理学療法士	0		
介護支援専門員	※4		兼務 居宅3名
介護職員	37	1	
管理栄養士	1		
事務職員	2		
その他		8	

令和6年3月末現在

## ○和の家職員数

	正職員	パート職員	備考
施設長	※1		兼務
生活相談員	※1		兼務
看護師	※5	※1	兼務
理学療法士	0		
介護支援専門員	※1		兼務
介護職員	17	1	
管理栄養士	※1		兼務
事務職員	※2		兼務

令和6年3月末現在

## ○理事会・評議員会等の報告

<p>第1回定時理事会 令和5年5月29日 午後1時30分～</p> <p>場所：大野の郷会議室</p>	<p>第1号議案 令和4年度社会福祉法人神和会事業報告について</p> <p>第2号議案 令和4年度特別養護老人ホーム（短期入所含む）事業報告について</p> <p>第3号議案 令和4年度大野の郷デイサービス事業報告について</p> <p>第4号議案 令和4年度障がい者福祉サービス事業報告について</p> <p>第5号議案 令和4年度居宅介護支援事業所事業報告について</p> <p>第6号議案 令和4年度社会福祉法人神和会一般会計収支決算報告について</p> <p>第7号議案 次期役員の推薦について</p> <p>第8号議案 評議員会の招集について</p> <p>第9号議案 施設長の選任について</p>
<p>第1回評議員会 令和5年6月13日 午後1時30分～</p> <p>場所：大野の郷会議室</p>	<p>第1号議案 次期役員の選任について</p> <p>認定第1号 令和4年度社会福祉法人神和会事業報告について</p> <p>認定第2号 令和4年度特別養護老人ホーム（短期入所含む）事業報告について</p> <p>認定第3号 令和4年度大野の郷デイサービス事業報告について</p> <p>認定第4号 令和4年度障がい者福祉サービス事業報告について</p> <p>認定第5号 令和4年度居宅介護支援事業所事業報告について</p> <p>認定第6号 令和4年度社会福祉法人神和会一般会計収支決算報告について</p>
<p>第2回定時理事会 令和5年12月5日 午後1時30分～</p> <p>場所：大野の郷会議室</p>	<p>報告第1号 令和5年度上半期事業報告について</p> <p>第1号議案 一般会計補正予算について</p> <p>第2号議案 評議員会の招集について</p> <p>第3号議案 次期評議員の推薦について</p> <p>第4号議案 評議員選任・解任委員会の招集について</p>

<p>第2回評議員会 令和5年12月18日 午後1時30分～ 場所：大野の郷会議室</p>	<p>第1号議案 一般会計補正予算（1号）について 報告第1号 令和5年度上半期事業報告について</p>
<p>第3回定時理事会 令和6年3月13日 午後1時30分～ 場所：大野の郷会議室</p>	<p>第1号議案 令和5年度社会福祉法人神和会一般会計補正予算（第2号）について 第2号議案 令和6年度社会福祉法人神和会事業計画（案）について 第3号議案 令和6年度特別養護老人ホーム（老人短期入所含む）事業計画（案）について 第4号議案 令和6年度老人デイサービス事業計画（案）について 第5号議案 令和6年度障がい福祉サービス事業計画（案）について 第6号議案 令和6年度居宅介護支援事業所大野の郷事業計画（案）について 第7号議案 令和6年度社会福祉法人神和会一般会計収支予算（案）について 第8号議案 各事業運営規程の改正について 第9号議案 就業規則の改正について 第10号議案 評議員会の開催について</p>
<p>第3回評議員会 令和6年3月28日 午後1時30分～ 場所：大野の郷会議室</p>	<p>第1号議案 令和5年度社会福祉法人神和会一般会計補正予算（第2号）について 第2号議案 令和6年度社会福祉法人神和会事業計画（案）について 第3号議案 令和6年度特別養護老人ホーム（老人短期入所含む）事業計画（案）について 第4号議案 令和6年度デイサービスセンター大野の郷事業計画（案）について 第5号議案 令和6年度障がい福祉サービス事業計画（案）について 第6号議案 令和6年度居宅介護支援事業所大野の郷事業計画（案）について 第7号議案 令和6年度社会福祉法人神和会一般会計収支予算（案）について</p>

## 令和5年度特別養護老人ホーム(短期入所事業含む)事業報告

### 1 事業経過

事業計画の進捗としては、LIFE 関連加算の科学的介護推進体制加算と褥瘡マネジメント加算を令和5年7月から算定開始した。今年度は加算取得の意味合いが強く、介護場面での活用までは至らなかった。次年度は、介護場面でLIFEのフィードバックを活用し、質の高い介護を目指していきたい。

BCP 事業計画について災害時、感染症ともに作成終了し、次年度運用を開始する。ロボット化、ICT化においては、補助金申請が間に合わなかったため計画を断念した。次年度補助金を申請し見守りシステムを導入したい。

### 2 運営状況

#### (1) 入居者・利用者の生活を支える

##### ①科学的ケアへの取り組み

科学的介護推進体制加算と褥瘡マネジメント加算の取得を開始した。フィードバックの分析・活用が今後の課題であり、ユニット会議等でフィードバックを分析して、個別ケアに活かす体制を構築していきたい。

##### ②感染・災害対策

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行した事を契機に、市内の状況等を見ながら面会や外出の緩和を進めた。また、実際に施設内で感染者が出た場合の対策においても、検証を行いながらスリム化を図った。

BCPの計画策定を行い運用に向けての体制を整えた。次年度運用を行う予定である。

##### ③福祉用具の導入・活用

見守りシステムの導入を計画していたが、助成金申請に間に合わず導入することが出来なかった。入居者の安全な生活と職員の働きやすい職場環境の観点から、準備を進め次年度には実現したい。

大野の郷開所当初から使用しているベッドマットが老朽化により、一部普通マットと除圧マットのリバーシブルタイプへ交換し、より入居者の体の状態に合わせたベッドマット選びができるようになった。

## （２）職員の育成

### ①研修

誤嚥、窒息による事故を防ぎ、安心・安全なケアの実現に向け、全国老協主催「誤嚥事故予防セミナー」（オンライン）を配信期間内に複数回に分け視聴した。それに加え OHAT（口腔アセスメント）の導入により、誤嚥（咽込み含む）が減り安全な食事環境が整備されたと実感する。その他身体拘束防止、虐待防止、感染症対策、認知症対策等を中心に実施。食中毒研修、感染症対策研修、褥瘡対策研修に関しては外部講師をお招きし実施した。また、今年度は研修内容の理解度を深めるため研修後の振り返りテストを実施した。

### ②働きやすい職場づくり

ユニットリーダーと介護主任を中心に半期毎に職員との面談を行い自己課題の発見、施設への要望等の吸い上げを行い、職場環境の改善に努めた。新たな試みとして人事に関する意向調査を実施し、人事異動等において活用した。

## （３）地域交流と地域への広報活動

### ①家族との交流

新型コロナウイルス感染症が５類へ移行したことを契機に、感染対策を行った上で状況を見ながら対面での面会と、商業施設等混雑する場所を避ける等制限を設けた外出の緩和を行った。

### ②地域行事への参加、施設行事の開放

感染症の流行状況を見ながら検討を行い、施設行事「月見祭」の入居者家族や地域の方々への開放は見送ったが、地域の行事である「鹿嶋まつり」へブースの出店と入居者数名が参加した。

## 令和5年度デイサービスセンター大野の郷事業報告

### 1 事業経過

デイサービスにおいては幸い感染症の集団感染を予防でき、営業を休止することなく運営できた。しかし通所事業所は地域での感染症流行の影響等受けやすく、稼働率が伸び悩んでしまった。ある程度感染対策を継続しながら、稼働を上げる取り組みを行ったが成果を出すまでに至らなかった。

### 2、運営状況

#### (1) 行きたくなる施設へ

稼働率の改善策として、新規利用者の獲得に取り組んだ。月平均3.9名の新規利用者を獲得したが、状態の悪化等で入院または入所施設利用へと切り替え、利用終了する方が同数以上居た為、結果稼働率の改善には至らなかった。

特養同様に感染症対策の緩和を進め、レクリエーション等サービスをコロナ前の活動に近づけるようにした。外出レクは実施できなかったが、比較的感染症が落ち着いた時期にレクリエーションボランティアの受け入れを行い、その他デイフロアでの季節に合わせたレクリエーションを実施した。

#### (2) 職員の育成

特養部門と同内容の施設内研修へ参加し、知識と技術の向上に努めた。居宅系サービスに特化した研修においては実施することができなかった。次年度は県老協、県社協で実施する研修への派遣も含め、デイサービスのサービス向上に繋がる研修への参加を実施していきたい。

## 令和5年度障がい福祉サービス事業報告

### 1. 事業経過

障がい福祉サービス事業として通所サービス・短期入所サービスを実施している。障がい者枠の利用は通所介護事業で1名の方が7回利用で、短期入所での実績はなかった。重度の障害はありながらも介護認定要件を満たさないケースなど、介護保険適用までのつなぎ的なサービスとして引き続き実施する。



## 令和5年度居宅介護支援事業 事業報告

### 1 事業経過

在宅での生活を可能な限り続けられるよう、その方に適切なサービス提供ができるよう引き続き支援する。家族を含めた自宅での介護環境の構築のためのサービス提供に努める。

#### (1) 新規契約者の確保

契約者数は一定数に達してはいるものの、入所系サービスの利用や死亡により利用が終了する性質上、新規利用相談を常に受けられる体制とする。

鹿嶋市の中でも特に高齢化率が高い大野地区において介護保険サービス利用の入り口といえる居宅介護支援事業を運営し、デイサービスやショートステイのような在宅サービス利用支援に努める。

#### (2) 緊急時の対応

緊急時の対応が可能な体制を整えている。

#### (3) 研修の参加

かしまケアマネージャーの会に参加し同会主催の研修に派遣するが、感染症流行の影響考慮しオンラインでの研修も活用している。

#### (4) 認定調査・サービス支援計画作成委託

各自治体の業務委託契約及び認定調査に継続して協力する。